

## はじめに

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 公開日: 2013-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梅澤, 収 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7290">http://hdl.handle.net/10297/7290</a>

## はじめに

『教職大学院・教育委員会・公立小中学校の互惠関係による校内研修向上プログラム「協働校内研修・静岡大―富士市モデル」のマニュアル化(報告書)』がここに完成しましたので、関係大学・機関等にお届けします。教員養成高度化に今後取り組んでいくための基礎資料として、本報告書がお役に立てば幸いです。

本調査は、平成 23(2011)年度「教員の資質能力向上に係る調査検討事業」として採択されました。この調査事業は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策の検討に着手するために必要な調査・検討を行う」ものであり、平成 22年度から開始されており来(平成 24)年度も継続される予定です(H22:74 百万円、H23:34 百万円、H24(案):14 百万円。平成 24 年度予算説明書等より)。

静岡大学教育学部は、今年度4月の教授会で教員養成の高度化の取り組みを積極的に推進することで合意し、静岡県・2政令市(静岡市・浜松市)教育委員会・教育長にそのための協力をお願いしました。

また、全学の合意を得て5月に愛知教育大学との共同大学院博士課程(後期3年のみ)の設置申請を行いました。文部科学省・大学設置審から出された質問・意見等に対する回答及び審査を経て、10月に来(2012)年度の設置認可を得ることができました(「共同教科開発学専攻」定員1学年8名)。

10月末に本調査事業の公募が公表されましたので、教員養成の高度化改革に繋げていくために、次の3つプログラム申請を行い、このうちA調査とB調査が採択されました。なお、C調査は今年度中の実施は困難と判断し次年度以降の課題としました。

1. 「養成・研修統合型の教職支援システム構築のための基礎調査―教員養成の高度化に対する管理職層の意識調査―」(A調査)
2. 「教職大学院・教育委員会・公立小中学校の互惠関係による校内研修向上プログラム『協働校内研修・静岡大―富士市モデル』のマニュアル化」(B調査:本調査)
3. 「養成―研修をつなぐ『実践的指導力』形成に関する基礎調査～職能成長を支援する大学の役割を考えるために～」(C調査)

本プロジェクト(B調査)の申請書類作成や採択後のプログラム実施にあたり、富士市

教育委員会の奥園好文・学校教育指導室室長に大変お世話になりました。また、富士市内の校長会や公立学校のみなさまのご理解と協力により、本調査事業が円滑かつ迅速に実施されましたことに深く感謝致します。なお、静岡大学内では、水野圭一・教務課副課長及び鈴木健太・産学連携係長にお世話になりました。

本プロジェクト(B調査)は、調査責任者の私、副責任者の菅野文彦・附属教育実践総合センター長の統括の下で、実施責任者である石上靖芳・教職大学院准教授をはじめとするスタッフ8名の態勢によって行われました。タイトな日程のなか、報告書完成までご尽力くださったプロジェクト委員の皆様には深く感謝申し上げます。また、本調査は、富士市との良好な連携協働関係づくりに長年中心的に取り組んで来た原田唯司・教育実践高度化専攻長をはじめとする教職大学院(教育実践高度化専攻)の実績基盤の上に行われましたことを申し添えます。

各大学・機関等は、教員養成の高度化のために、それぞれの立場と個性を大事にしながら、広い視野をもつて的確に改革を進めていくことが求められています。そのためには関係大学・機関等の連携と協力が不可欠です。本報告書が、教員養成の高度化改革を行っていく際の一助となることを願いますとともに、忌憚ないご高評がいただければ幸いです。今後とも、よろしく申し上げます。

2012年3月

静岡大学大学院教育学研究科長

梅 澤 収